

## 研究テーマ「生徒の考える力や学ぶ力を引き出す学び合い活動の在り方」

八頭町立八東中学校

### 1 はじめに

思考力を高めるために生徒同士の学び合い活動を取り入れて3年目である。この研究の過程で、スーパーバイザー広島大学大学院教育学研究会木下博義准教授に「アクション・リサーチ」という新しい授業改善の手法を学び、今年度は、研究テーマの下に全教員がこの手法に取り組んで授業改善を実践した。

### 2 研究のねらい

生徒の主体的な学習を促すために、次の点を改善することをねらいとした。

- ①生徒が自らを振り返る力を高め、考える力や学ぶ力を引き出す手立てを考える。
- ②学び合い活動の改善にアクション・リサーチの手法を活用する。
- ③授業の学習目標と振り返りの整合性を図る。

### 3 研究内容

#### (1) 学び合い活動を取り入れた授業の展開

昨年度に続き、学び合い活動を促進するために、学び合いの過程を次の4段階で捉えた。

段階	活動の視点
発想	自分の考えを持つこと
表出	自分の考えを仲間に伝えること
比較	自分の考えと仲間の考えとを比較して、共通点や相違点に気づくこと
練り上げ	仲間といっしょに考えを深めたり、自分の中で考えが深まったりすること

そして、研究授業を行う際には、事前に教科の枠を外したメンバーで指導案検討会を持ち、研究のねらいが反映されているかを検討した。

#### (2) アクション・リサーチを活用した授業改善の推進

- ①生徒の実態から課題（リサーチ・クエスチョン）を設定し、課題を改善する手立て（仮説）を考えて実践する手法を学ぶ。
- ②実践の前に、検証方法を考えておくことで成果と課題を考えるための資料を計画的に収集し、改善の成果と課題の信頼性や妥当性を高めていく。
- ③改善の成果が上がらなくとも、その課題を明らかにすることでさらなる授業改善につなげていく。

#### (3) アクション・リサーチ研修会

昨年度の2学期に初めてアクション・リサーチを実践したが、その際は、初めて手法を学ぶため研究テーマとは関連付けず、各自が取り組みやすい課題を考えて授業改善を行った。

本年度は、研究テーマと関連させ、次のように実践を進めた。

##### 【1学期の実践】

アクション・リサーチのテーマを「思考力を高めるために学び合い活動を取り入れた授業」として、各自が学び合い活動の4段階のいずれの段階でもよいので課題となる点をリサーチ・クエスチョンとして実践した。

##### ○夏期アクション・リサーチ研修会(7月29日)

リサーチ・ペーパーを4段階のいずれについてリサーチ・クエスチョンを考えているかで分類すると、次のような結果だった。

発想段階 7人、発想と表出段階 2人  
表出段階 3人、表出と比較段階 1人  
比較段階 1人、比較と練り上げ段階 1人  
練り上げ段階 1人

このことから、学び合い活動に取り組む場合、まず一人ひとりの生徒が自分の考えを持つことに課題を感じている教員が多いことが明らかになった。

## 【2学期の実践】

1学期の実践を受けて、アクション・リサーチのテーマを発想段階に絞って行った。

### ○冬期アクション・リサーチ研修会(12月26日)

その結果、次のような手立ての実践が報告された。

- 1年国語：発想を導くための個々の学習設定
- 2年国語：結論に根拠を伴わせる目的を理解させる指導
- 3年国語：根拠を記述するワークシート
- 1年社会：資料の提示の工夫
- 2年社会：資料の提示の工夫
- 2年数学：複数の道筋がある命題の設定
- 1年理科：「予想－理由づけ－討論－実験－検証」の流れを取り入れる。
- 2年理科：授業内容を模造紙に図示した関連図の活用
- 3年理科：考えメモ用紙の活用
- 3年音楽：教科の専門用語(リコーダー演奏)の活用
- 1年美術：これまでの学習の振り返りの活用
- 1年保健：教科の専門用語(サッカー)の活用
- 2年家庭：教科の専門用語(食生活)の活用
- 1年英語：文法クイズを使った問題演習
- 1年英語：TT授業でT2の生徒へのかかわり
- 3年英語：チャンクを活用した読解指導

このように、発想段階だけでも数多くの手立てが報告された。アクション・リサーチは授業改善の視点を明確にするとともに、その成果と課題の検証(授業の振り返り)がしっかりできるので授業改善にはとても有効な手法である。また、同じ様式でリサーチ・ペーパーを作成するので、教科を越えて実践を共有しやすく、教師同士の切磋琢磨を促すこともできる。

しかし、テーマを絞ることによって、授業改善の視点が制約されることは授業者にとっては取り組みにくさにつながるようである。

## (4) 授業評価の工夫

本年度も授業研究の振り返りに視点を定め

たKJ法(マトリクスKJ法)を活用したが、メモした付箋紙を直接模造紙に張り付けながら協議をすると、メモの内容を項目ごとに分類しながら話をするという煩雑さがあった。そこで、今年度は、模造紙に貼る前に、模造紙を縮小して印刷した「付箋紙分類シート」を配り、予め各自が付箋紙をシートに貼って分類してからグループ協議を行った。このひと手間を加えることでグループ協議がより円滑に進められるようになった。

## 4 研究のまとめ

### (1) 成果

- ①アクション・リサーチの手法を理解し、全教員が実践し、授業改善を進めることができた。
- ②本年度の学校生活アンケートでも、次のような生徒の肯定的な回答が多くあった。
  - ・学校で好きな授業がある…91%
  - ・勉強していておもしろい、楽しいと思うことがよくある…75%
  - ・学校の授業は分かりやすい…84%
  - ・先生は授業で教え方にいろいろ工夫してくれる…90%
- ③11月の授業実践月間で全教員が指導案を書き、互いに授業を参観することで学習目標と振り返りの整合性を意識した実践ができた。

### (2) 課題

- ①成果の質的・量的な検証が不十分なので、学び合い活動の各段階で求められる力を具体的に設定し、生徒の自己評価を促しながら授業改善の結果を検証していく必要がある。
- ②アクション・リサーチは、個人の授業改善として今後も継続して実践していく。

## 5 おわりに

来年度は、本校の実践を「授業づくりセミナー(Action Researches of Hatto Junior High School) ☆略称：アロハセミナー」と名付けてこの授業改善の取組を継続していきたい。

## アクション・リサーチ

所属 ( 八東中学校 ) 氏名 ( )

対象・単元	学年・組 第 2 学年 A・B 組 生徒 36 名		
授業改善のポイント	単元名 New Horizon English Course 2 Let's Read "A Magic Box"		
テーマ	教師の朗読により、繰り返し英文を聴くことで英文への習熟を高める指導の工夫		
改善したい生徒の姿	1 年の教科書は、本文が全て対話文で、一文が短く、音読から暗唱へは比較的楽にできていた。しかし、2 年の教科書には、リーディング・フォー・コミュニケーションというまとまった文章のパートがあり、音読から暗唱への移行が難しくなっている。		
問題 (生徒の実態)	授業改善のねらい (質問形式)		
リサーチ・ クエスチョン	どうすれば教科書の文章量が多くなる中で、英文の習熟度を高めることができるだろうか。		実際に授業でしたこと
			事前事後の変容が大切
仮説	検証方法	実践	検証結果
教科書の読解指導に、教師の朗読をペースリーダーとした黙読を多用して英文を繰り返し聞かせれば、英文への習熟度を高めることができるのではないかと。	①授業で、ペアで行うリーディング・チェックで獲得するスタンプの数を確認する。 ②生徒にアンケートを実施し、朗読を何度も聞くことが英文の音読や暗唱に有効かどうかたずねる。 ③毎時間の授業の振り返りカードに記入した生徒の記述を読み取る。	教科書の読解指導を 3 段階分けて行った。 ア. 英文のタイトルを考える。 イ. 日本語の問いに答える。 ウ. 英語の問いの答えを考える。 アでは、朗読を 3 回、イとウでは各設問に 2 回ずつ朗読をしている間に読み取りをさせた。 その後に、音読練習を行い。最後に、ペアでリーディング・チェックを行った。 その結果、与えるスタンプの数は、暗唱：4 つ、日本語のヒントをもらって暗唱：3 つ、リード・アンド・ルックアップ：2 つ、音読：1 つとした。	①1 学期は 1 ページ平均 2.5 個のスタンプだったが、2 学期は平均 3.4 個となった。文章が長くなり、スタンプの数を最大 3 つから 4 つに 1 つ増やしたが、平均もほぼ 1 個分増えている。 ②複数回答で、「英文の読み方が分かった」58%、「音読がやりやすくなった」45%、「英文の内容が理解しやすかった」30%、「質問の答えが考えやすかった」18%、「暗唱がやりやすくなった」15%、「特に変わったことはなかった」6%、「その他」3% ③毎時間の振り返りカードには記述はなかった。
具体的な改善の方策 (検証がしやすいように、できるだけ 1 つに)	量的検証 (テストなど) と質的検証 (感想など)		
検証結果を受けた成果と課題 (うまくいかなかったことが次の改善点につながるのでそのままを記述しましょう。)			
成果 (研究全体を通しての成果)	スタンプの平均獲得個数は、1 ページの文章が長くなっても大きく減っていない。教師の朗読により、暗唱がやりやすくなったと直接の効果があった生徒は 5 人だった。多くの生徒には、「英文の読み方が分かった」、「音読がやりやすくなった」という暗唱への間接的な効果であった。教師の朗読は何も効果がなかったと答えたのはわずか 33 人中 3 人であった。このことから、生徒が英文の読解をしている時に、教師の朗読を聞かせることは英文の習熟に効果があると言える。		
課題 (AR から明らかになった次の課題)	同じアンケートで、33 人中 31 人 (94%) の生徒が音読はできると答えている。しかし、暗唱ができると答えた生徒は 10 人 (30%) である。できない理由 (複数回答可) は、「単語は覚えられるが、文になると覚えられない」が 23 人中 17 人 (74%)。次に、「単語の発音はできるが、覚えられない」と「英文の意味がうまく読み取れないので暗唱することができない」が同じ 3 人ずつ (13%) であった。このことから、次の課題は、音ではなく、英文の構造に習熟させることである。事前アンケートをして変容を見る必要があった。		

## アクション・リサーチのねらいと記入の要領

## 【ねらい】

- ① アクション・リサーチは、普段、何気なく行っている授業の工夫や改善をリサーチ・ペーパーに書き出すことで意識的に行い、実践を積み上げていく手法です。
- ② アクション・リサーチは、検証を行うことで、成果と課題が明確になり、より効果的に授業改善を行い、教師の授業力を向上させるものです。
- ③ アクション・リサーチは、リサーチ・ペーパーを通して、互いの実践を知り、共有できるものです。
- ④ アクション・リサーチは、リサーチ・ペーパーを保存することで、教育実践のポートフォリオとなり、PDCA サイクルを進める上でとても有効な手法です。

## 【記入の要領】

- ① テーマは、本校の研究主題の下に、リサーチする授業改善のポイントを副題として書いてください。
- ② 問題（生徒の実態）は、テーマを取り上げた理由として、改善すべき生徒の姿を書いてください。
- ③ リサーチ・クwestionは、授業改善に取り組むねらいを質問形式で書いてください。  
例：「どのような指導をすれば、〇〇ができるようになるか。」「〇〇力を高めるには、どのような指導をすればよいか。」「〇〇することは、△△を育成するのに有効だろうか。」など  
＜チェックポイント＞
  - \* 現状のどこが問題で、何ができる生徒になってほしいか。
  - \* それは大部分の生徒が、努力すれば達成可能なレベルか。
  - \* 具体的に対策が思いつくか。それは授業で実施可能か。
  - \* 目標の達成を評価する場面が確保できるか。
- ④ 仮説は、「〇〇すれば△△になるのではないか。」と具体的に改善の方策を書いてください。できるだけ一つの改善策に絞りましょう。二つのことを取り入れると、何が効果を生んでいるのか検証しにくくなります。つまり、何がどうよかったのか、わかりにくい結果になることが予想されます。
- ⑤ 検証方法は、実践をした後に成果を判断する方法を書いてください。効果を検証するには、「仮説に書いたこととの対応」を取ることが必要です。指導したことに対して、どのような方法でデータを取って、それをどう分析すれば効果があったかわかるのか、具体的に書くようにしましょう。実際の授業場面や分析作業をかなり具体的にイメージしておきましょう。  
例：アンケート、生徒作品、筆記テスト、実技テスト、観察、インタビュー など  
＜チェックポイント＞
  - \* 何を、いつ、どこで実施するか予定を立てておく。
  - \* 無理なく実施できる方法を考える。
  - \* 生徒の感想（質的検証）とテスト（量的検証）のようにできるだけ複数の検証方法を用いる。

次の⑥～⑨は、実践を終えた後に書きます。実践期間は、単元一つでも、毎時間の実践でも構いません。

- ⑥ 実践は、改善の方策を、いつ、だれに、何を、どのようにしたか、を書きます。
  - \* 生徒に配付した資料やワークシートがあれば添付します。
- ⑦ 検証結果は、検証の方法とその結果を書きます。
  - \* 検証に用いたアンケート用紙やテスト用紙があれば添付します。
- ⑧ 成果は、リサーチ全体を振り返って、改善された点、効果のあった点を書きます。
- ⑨ 課題は、リサーチ全体を振り返って、改善が不十分だった点、効果がなかった点を、考えられる理由とともに書きます。これが、次のアクション・リサーチの課題となります。

（木下先生の指導による。参考図書：『はじめてのアクション・リサーチ』、『アクション・リサーチのすすめ』）

## 付箋紙分類シート

	成 果 (青い付箋)	課 題 (赤い付箋)
学習目標と振り返り		
個人の発想への支援		
小集団から全体への練り上げ		